

調査出張報告書〔総務委員会〕

調査年月日	平成28年9月1日(木)	調査時間	13:55~15:43
調査先	北海道札幌工業高等学校	実施場所	会議室
説明者	池田校長 外	現地視察等	校内見学
調 査 概 要			
<p>1 説明内容</p> <p>○北海道札幌工業高等学校の概要・取り組みについて</p> <p>2 質疑の概要</p> <p>○HR前の朝学習(10分間)について</p> <p>各授業の中で年間計画を立てて、そのクラスの取り組む時間数を適切に分けている。資格試験が近くなってくると模擬テストを行ったり、その他、英数国等の小テストを行う等、トータルで偏りのないようにしている。朝学習を始めてから生徒の遅刻が減り、学習効率も良くなった。</p> <p>○冊子「教育計画」に掲載されている「学校安全計画」、「休日及び校外での部活動における事故発生時の処理」の活用方法について、どういう形で活用しているか。</p> <p>学校の概要、年間予定表とともに、「教育計画」という冊子にまとめ、全教職員に配付している。何か(事故などが)発生した場合、教育計画を見て全職員が対応できるようにしている。</p> <p>○中途退学者への対応について</p> <p>子供たちの価値観の多様化で、進路変更を希望して転校をする形になっている。頭髪指導など生徒指導が厳しいこともあるが、保護者の理解を得て、産業界の将来を担う人材を育成するため努力している。</p> <p>○インターンシップが生徒の地元就職に与える影響について</p> <p>子供たちは将来の自分たちの職場に対する正確なイメージを十分持っていないので、インターンシップは非常に大きな影響がある。職場見学やインターンシップの機会を利用して実際に子供たちが、将来進む職場のイメージというものをしっかりと身につけていく。そういうところも就職定着率の良さにつながっていると思う。数年前、道内求人が非常に低調だったころはインターンシップを断られることが多かったが、近年は企業に随分協力してもらっている。</p>			

調査の成果・委員会としての意見等

- 生徒が自分たちの使う道具をきちんと整理するなど、校内が整理整頓されていた。道具を大切にすることを見習うべきと感じた。高知県の高校は不十分である。
- 7年連続で100%の進路保障がされており、基幹産業が農業や観光が中心の中で、工業、産業系の会社へ就職していることは、2年生時の全学級インターンシップが力を発揮していると聞いた。参考とすべきである。
- 中学校120校に訪問するなど札幌工業高校のPRに大変努力している。生徒数が減少する中で、高知県も見習う必要がある。
- 高校は、社会に出る前にマナーをしっかり身につけるための3年間と考えており、保護者に理解を得た上で、生徒指導にしっかり取り組んでいた。

特 記 事 項

調査出張報告書〔総務委員会〕

調査年月日	平成28年9月1日（木）	調査時間	16:08～17:09
調査先	札幌市中央図書館	実施場所	3階研修室B
説明者	千葉館長 外	現地視察等	施設見学
調 査 概 要			
<p>1 説明内容</p> <p>○札幌市中央図書館の概要・運営について</p> <p>2 質疑の概要</p> <p><b>○専門性を持った司書の養成について</b></p> <p>現在、職員研修に非常に力を入れている。情報検索技術の研修やビジネス・ライブラリアンの研修に計画的に参加させて資格を取っていくようにしている。</p> <p>札幌市は嘱託職員に専門性を担ってもらう方針であり、司書職として正規職員を雇っていないが、専門職の嘱託職員として60歳まで勤務可能な制度を作っている。</p> <p><b>○視覚障害者が図書館を利用する場合の工夫について</b></p> <p>身体障害者手帳の1～4級等、条件を満たした方に宅配、郵便等で自宅に図書を直接、配送するサービスをしている。</p> <p><b>○高齢化で目が不自由になることによる本離れへの図書館のサポートについて</b></p> <p>目の見えない方への対応は、1階、2階にそれぞれ拡大読書器を設置している。目の弱者については、福祉専門施設（札幌市障害者情報センター）が主体になって図書館と連携してサービスを行っている。</p> <p><b>○電子書籍の利用者層と満足度を高めていくための課題について</b></p> <p>電子書籍の利用者は、働き盛り世代（30～40代）が一番多い状況。</p> <p>大ベストセラーは（作家が嫌がって）電子化されていない作品が多くある。人気作品が電子化されてくれば利用者数がふえてくると思う。ただ人気作品を見れるだけでは貸本屋になってしまうので、市議会便りや広報など行政の出版物で、地域色を高める独自の観点を強化していきたい。</p> <p><b>○札幌市立図書館における指定管理制度の導入について</b></p> <p>ほとんどの図書館が、地域の運営委員会が受託している。</p> <p>民間の競争という形にはなっていないところが多い。</p>			

調査の成果・委員会としての意見等

- 札幌市も高知県も図書の購入費が少なくなっている点が心配である。検討が必要と感じた。
- 札幌市立図書館が道立図書館の役割である専門性を持った司書の養成を行っている。札幌市は非常に先導的な取り組みをされており見習うべきである。  
高知市にも専門の司書の養成について共通認識を持ってもらわなければならない。
- 図書館の分館などのサービスポイントを41か所設けて、きめ細かな図書館サービスを提供していると感じた。

特 記 事 項

調査出張報告書〔総務委員会〕

調査年月日	平成28年9月2日（金）	調査時間	10:18～11:30
調査先	北海道函館水産高等学校	実施場所	会議室
説明者	三田村教頭 外	現地視察等	校内見学
調 査 概 要			
<p>1 説明内容</p> <p>○北海道函館水産高等学校の概要・取り組みについて</p> <p>2 質疑の概要</p> <p>○地元企業との連携について</p> <p>学校PRは大変大事なことで、中学校の生徒数が減っている状況で、高校を残していくにはPRしかないと思っている。高校で作った缶詰を色々なイベントに出しているが、企業とのタイアップはしていないのが現状。函館には缶詰を作っている会社が多く、珍味や塩辛を作っている会社が多い。そういう会社に卒業生がたくさん就職しているので、そこで偉くなった人と売買の接点を持ちながらやっていければと思っている。</p> <p>○学校で作った製品を地元マスコミ等へPRする取り組みについて</p> <p>缶詰の販売は丸井やコープに出店してやっており、今後はマスコミとかへPRするよう考えている。9月末の学校祭では缶詰に長蛇の列ができる。本当は色んなところとタイアップできればいいが、週2回しかない実習なので、製品があまりできない。また、原料代が高いので増産がなかなかできない。</p> <p>○新幹線開通に連動した商品の売り出し等の機運の盛り上げについて</p> <p>現在、開催中の「新函館北斗駅前賑わい創出イベント」へ11月6日（開催期間最終日）に皆で行く準備をしている。イベントでは販売まではいかないと思うが、試食してもらい、好評なものに関して次年度に製品化に取り組んで行きたい。</p> <p>○チョウザメ肉の製品化について</p> <p>先進的に取り組む事業所が茨城県つくば市等にあり、卵からふやして完全養殖しており、握り寿司などが製品化されている。本校でも製品として完成させたいと考えており、生徒が継続して取り組んでいくことを期待している。</p>			

調査の成果・委員会としての意見等

- HACCPに基づく衛生管理導入評価事業について、元々、HACCPに対応して作られたものではなかった水産加工施設を予算がない中、自分達で衛生管理に対して高い意識を持って工夫していた。高知の学校でも見習うべきである。
- 函館新幹線ができたことで水産4学科の特色を生かすことや地域の水産高校へのニーズを踏まえてH27～29年度の3カ年で「専門高校Progressiveプロジェクト」に取り組んでいる。高知にとっても学ぶ所である。
- 就職希望の生徒の就職率はほぼ100%であり、進学についても落ちることはなく進学率もだいたい100%。150～160名の生徒が卒業するうちの3、4名は就職・進学しないでアルバイトで暮らしていくというものは省いているが、そういう生徒も卒業後はアルバイトしてそれなりにうまくやっている。

特 記 事 項

--